

青雲館新聞

発行 秋田県立横手高等学校 青雲館
 出版委員 青雲館
 〒013-0037 秋田県横手市前郷二番町10番1号
 TEL 0182-32-2011 FAX 0182-32-0133

春 新入生入学



本校舎のステージ。校長先生が点呼された新入生を見守る

四月六日（金曜日）、全日制校舎で入学式が行われた。この入学式は、全日制校舎で行われる。そして、全日制課程二三五名、定時制課程二八名、合わせて二六三名の新入生を迎えることができた。

式が挙行される前までの新入生は、これからの生活に期待を膨らませつつ、緊張した面持ちで保護者とともに会場へと足を運んでいた。また、在校生は歌の発声練習をして新入生を迎え入れる準備をしていた。

いよいよ本番が始まり、真新しい制服やスーツ姿に身を包んだ新入生が吹奏楽の演奏とあたたかな拍手とともに入場してきた。多くの在校生、保護

緊張の面持ちから笑顔へ

者、先生方に囲まれる中、背筋を伸ばし堂々と歩いていた。一人一人が氏名点呼で呼ばれ元気に「はい！」と返事をした。この入学式のことを一年生にインタビューしてみたところ、1Bの高橋洸矢さんは「横手高校はとても広くて、緊張したが、クラスのみんなは優しいので安心した。これから毎日笑顔なクラスを作っていきたい」、また、1Aの阿部宏樹さんは「人数が多くて驚いた。緊張もしたが、みんな良い人で良かった。部活動では、全国大会に出場したい」と語ってくれた。



平成30年度の青雲館新任式



風は強かったが 桜はほぼ開花していた

今年は快晴

四月二十六日（木）青雲館の生徒はクラスごとに分かれて、横手市民会館まで歩きながらゴミ拾いをした。四年

地域に貢献 クリーンアップ

生、三年生、二年生、一年生の順番で清掃した。ゴミはそれほど落ちていなかったが、その時の、夕日と桜がきれいだった。また、上から見た景色もとてもきれいだった。

予告

じさま再来！！
 体感せよ！じさまワールド

七月二日、本校で開かれる今年度PTAにて、「じさまパッカー」こと石川進一さんが、再び講演会を行うことが分かった。「旅する力」どこまでいけばなんとかなるもんだす」と題する。

石川さんは、御年七十歳。リュックサック

時事問題を考える

【依存】について

数が増えている高校もある。そんな中、私たちの学校で人数が増加していることはとても嬉しく思う。これからも、青雲館に入学したいという生徒が増えるような魅力を発信していきたい。

2 A 佐藤理湖

一つと秋田弁で世界を、渡り歩く、「じさま」のバックパッカーだ。昨年度は、当時の三年生を対象に旅の講話をして頂いた。私自身その講演会に参加したが、どのお話も面白いものばかりだったのが印象深い。二十九年

では、「旅する力特集記事」として、当時の三年生が行ったインタビュー記事に掲載した。興味のある方は一度読んでみてほしい。職員玄関入り口付近の壁や、青雲館のホームページで見ることが出来る。

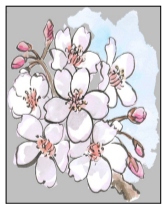
「今年もインタビュー記事の作成を行う」と

国語科の松江先生。今年はどうなお話が聞けるのだろうか。また、生徒によるインタビュー記事はどんなものになるのだろうか。出版委員会で次号、「旅する力特集記事」として、生徒のインタビュー記事の掲載をする予定だ。

4 A 碓子 歩



一列に並んで 石拾い



帰ってきてからは、グラウンドの石拾いをした。このグラウンドで野球部が活動するということなので、帰ってきてから、しっかりと清掃をした。

今年のクリーンアップは成功に終わった。来年も、今年以上に全校で取り組もう！

1 A 西村元貴
 1 B 泉田凌平

身近な依存

マスメディアでもアルコールや薬物への依存が原因の事件を取り上げる。特集が組まれることもある。実際、最近のニュースでは芸能人の依存による不祥事が相次いで話題になっている。そうなるのを防ぐためにも、若い世代は学校で危険性を学ぶが、スマートフォン・インターネット・ゲームといった新しく依存しやすいものが現れる。これらは薬物のように直接的に害をなす悪いものではない。だが、使い方を間違えた結果、病的にのめり込んでしまう。

依存は悪か？

最初に書いた通り、依存という言葉から良いイメージをもつ人は少ない。しかし、依存症になる人が全て悪いかとなるとそれは違う。頼れる場所を探して、見つけた物との関わり方を間違えてしまっただけで、必要なのはそれを責める声や呆れることではなく、困っている時に上手に頼ることのできる余裕を持ってもらう機会だ。そして、仮に周りで依存症になってしまった人がいた場合、精神論で対処するということが出来ないように、知識を深め、一人でどうにかしようと思わず、正しい機関に助けを求める行動力も重要になってくる。

依存症は「なつたらいけない」という意識だけで防げるものではないはずだ。この病気は、周りや自分の話でもある。今、何が自分にとって辛いのかを考えた上で、頼るために生きるのではなく、生きるために頼られるようにしていこう。

2 B 鈴木千桜

正々堂々と 全力で挑む

今回は、横手と角館双方の選手に試合前の意気込み、試合後の感想をインタビューした。



バスケットボール部

伊藤圭人さん(横手)は試合前「バスをしつかり繋げたい」と意気込み、齊藤流星さん(横手)は

五月十九日(土)に角館高校定時制体育館にて県南総合体育大会が開催された。バスケットボール、バドミントン、卓球に3種目において選手それぞれが目標を持ち試合に臨んだ。白熱した試合は、見る人の心を圧倒した。

白熱! 県南総体

図書紹介

支援用図書の存在



この学校には定期的な秋田県立図書館から支援用図書が届く。つまり世辞にも本の多くない我が校に、必要や人気の高い本が入荷される。いいシステムである。欠点は、本が本校に置かれていない期間が曖昧なことぐらいである。

この漫画をきっかけにハマった。考えてみると貸出期間には限りがあり、それでいて読み切りたいと思うなら漫画が送られてくるというのには効率的で、合理的である。

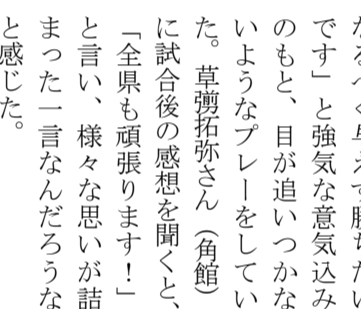
最後に、小説版「銀河英雄伝説」全巻セットを、支援用図書として希望したい。

「チームを引っ張ってきたい」と一切弱音を吐くことなく試合に臨んだ。結果的に僅差で負けてしまったが、観戦する私たちに一生懸命プレーする姿を見せ、楽しませてくれた。試合後、二人の口からは、思っようなプレーがでなかったなど、反省の言葉が出てきたが「次はがんばりたい」と前向きに捉え、次へのステップを歩み始めた。諦める、諦めないの決断が未来の自分に深く関わってくるのだ。



バドミントン部

伊藤瑞紀さん(横手)は試合前「緊張する自分の力を発揮したいです」と意気込んだ。高野湧さん(角館)も「毎日の練習の成果を発揮したいです」と話し、試合後「練習の成果を発揮できました」と自身の納得いく形でプレーできたようだ。進藤勇飛さん(角館)は試合後「ダブルスで勝つことができたので次はシングルス優勝!」と勝利



卓球部

高橋弘騎さん(横手)は試合前「相手に点数をなるべく与えず勝ちたいです」と強気な意気込みのもと、目が追いつかないようなプレーをしていた。草薙拓弥さん(角館)に試合後の感想を聞くと、「全県も頑張ります!」と言い、様々な思いが詰まった一言なんだろうなと感じた。

私は試合後に選手同士が握手する姿が印象に残っている。握手には勝利の受容、相手を確認合う、感謝など様々な意味が込められていることに改めて気づかされた。試合には必ず勝利があるが、負けを経験するから人間は成長できるのだと思う。「負け」には「勝利」以上の価値があるのではないだろうか。これはスポーツに限らず、誰しもに言えることである。失敗しても決して諦めないでほしい。今大会は、プレイヤーだけでなく、見る人も楽しませることができ、「スポーツ」という一つの文化の素晴らしさを、努力を積み重ねた選手を通して感じられた場であった。

私にはまだ値段は下がらない。このように天候に左右されやすい食料は輸入先の国にもあり、もしその国で生産できなくなれば日本に輸出できなくなる。つまり、食糧自給率が高ければ一人一人の食生活が安定するという仕組み

委員会 食物を多く輸入し多く捨てる国日本

皆さんは食糧自給率という言葉を知っていますか。簡単に説明すると、私たちが食べる食料のどれくらいが国内で作られているかを示す値である。日本の食糧自給率は39%(2014年度)である。高い水準に見えるが、今、日本の代表的な主食である米が消費されなくなり、小麦や肉、油がよく消費されるようになった。小麦、肉、油の原材料となる穀物はほとんどが輸入されているものだということがご存じだろうか。日本

は、国民の食生活が変わり食料の大半を輸入に頼っているのだ。なぜ食糧自給率が高くないといけないのだろうか。世界では今、深刻な地球温暖化により異常気象が相次いでいる。日本では昨年の大雨被害によ

がまだ値段は下がらない。このように天候に左右されやすい食料は輸入先の国にもあり、もしその国で生産できなくなれば日本に輸出できなくなる。つまり、食糧自給率が高ければ一人一人の食生活が安定するという仕組み

輸入で多くの食料を確保している日本だが、世界で一番食料を捨てる国といっても過言ではない。先進国であるのにも関わらず食糧廃棄率が世界でトップレベルなのだ。今回は日本の食の現状

結果

バスケットボール	男子団体	二位
バドミントン	男子団体	二位
	女子団体	二位
卓球	男子団体	二位
	女子団体	一位
男子シングルス	菅原寛人	三位
	高橋弘騎	三位
女子シングルス	遠藤瑞季	一位
	高橋花鈴	二位
	柴田春颯	三位
男子シングルス	佐々木泰耶	二位

編集後記

青雲館新聞六月号、読んでくださりありがとうございました。三〇年度の出版委員会の活動が始まりました。編集作業にも慣れてきて、様々なレイアウトにチャレンジして行こう!と行き込んだものの、そろそろこの編集作業も、下級生へと引き継いでいかなければならない時期にもなっています。この一年で学んだ技術を、少しずつ伝えていければいいなと思います。しかし今年も、もうすぐ半分が過ぎようとしています。時の流れはあまりにも早いなあと思えますが、驚いている内に置いて行かれてしまわないように、しっかりと行きたいです。

3 A 碓子歩

へのお熱い思いを語ってくれた。

3 A 八柳純也

3 A 武内彩乃